

梨

西川 邑子

絵／石阪 春生

隠れていたのではなかつた
サイフオンの影で見えなかつただけ
何日も とり残されていた

もちあげると

手のひらに

ずつしり のしかかる

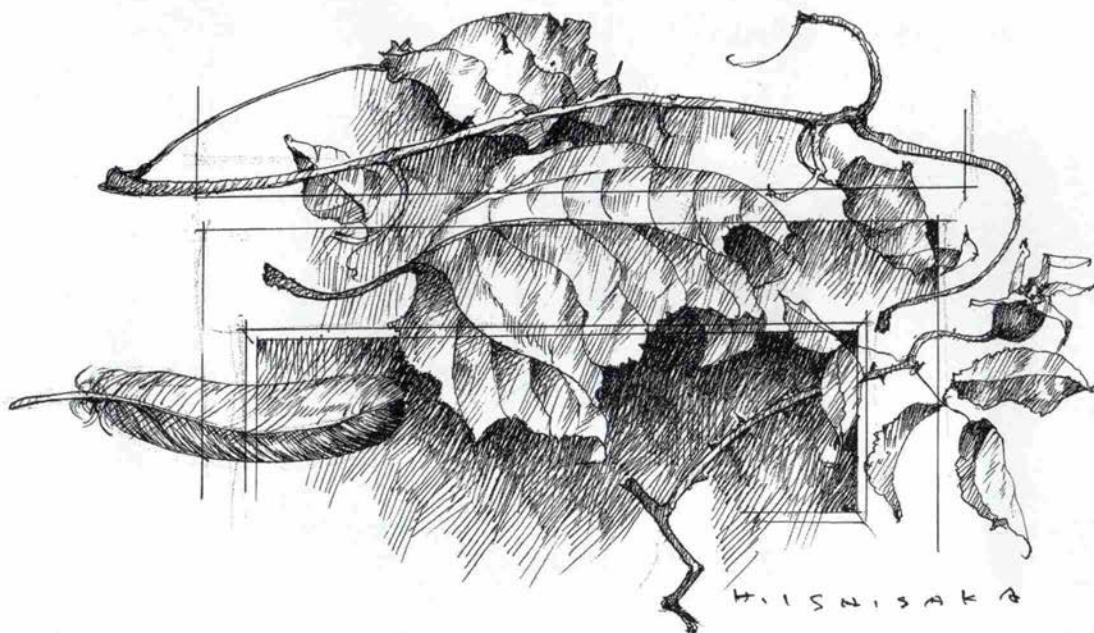
表皮にしわがより

もう待てないという

ナイフでうすく剥いていく

ながい沈黙からとかれ

饒舌はとめどもなく 指を濡らす



(モルツ球団:真弓 明信)



な生
やビ
ツル

100%
生ビール
モルツ



飲酒は20歳を過ぎてから。あき缶はリサイクルへ。

製造・販売 サントリー株式会社

【新首都の役割】

新首都は、日本の進路を示す神殿的役割を果たすべきと私は思う。日本の進路つまり新首都の条件とは、第一に阪神・淡路大震災のような天変地異と地球環境問題に対応する世界最先端の知恵と技術を装備し、第二にわが国は戦争放棄の平和国家であるから、香り高い文化をリードすることだ。

□私の意見

新首都を神戸に

川上 勉

〈オールスタイルグループ会長〉

【新首都建設で国家の進路を明確にせよ】

わが国的新首都が建設されるに当たり、世界の目が集まっている。というのは今、わが国は世界一外貨を保有する経済大国であり、未曾有の都市災害である阪神・淡路大震災を経験した技術大国だからである。

世界のモデルたりうる新首都の建設によって地球、人類のために貢献する国となり、国民には日本人であることの喜びと誇りを、産業企業には活動理念や行動の揃い所を、国家には名分ある進路を与える。このような志をもつプロジェクトにするべきである。

【新首都に最もふさわしい場所は神戸である】

新首都建設地には、それを受け入れる力量が必要である。新首都は国際都市、国際政治都市になる命運を抱えている。世界の人々、機関、機関を受け入れるために、そのための土壤、環境のあるまちであることが不可欠である。

神戸は居住外国人の国籍が多い。明治元年一月一日の開港以来の国際都市であり、空港、新幹線、海路も開かれ、交通輸送が至便である。マルチメディア都市構想を国家の支援を受けて推進し、地球環境問題にも取り組んできた。「山、海へ行く」と言われた埋め立て工法で、新たにわが国初の海上都市を生み出してきた。

神戸での新首都用地は大阪湾上の海上都市用地を中心求めることができある。さらに近畿京阪奈はわが国文化の発祥の地でもある。

神戸は国際性、災害対応、情報文化などの面で、平和国家の新首都建設に極めて適した土壤環境と、すぐれた力量を具备している唯一のまちと言える。



よみがえれ美しい神戸



私は忘れない

語り継ぐ役割を担つて…

加藤登紀子（歌手）

あの日の後、歌つてみようと思つて作つた曲があります。泣けないでいる子供たちが多い、そういう話を聞いて、思ひ込み上げて来て、一夜で作つた歌があるので。でも、なんとなく世に出せず、しまつておいたのです。

どうして歌わないので、と聞かれるのですが、つらい気持ちでいる人に届く歌だろうか、とそのたびに自分に問い合わせています。

「悲しみの海の深さを／だれが知つてゐるだろうか」という歌なのです。いつ歌うことができるのか、それは、この神戸の地に立ち、みなさんとお話ししてみれば、あるいは分かることなのかも知れません。ひょっとしたら今日歌うことができるかも知れません。

小学生のとき、京都にいたのですが、バレエを習つていて、初めての発表会が神戸がありました。発表会が終わって、母が何を思つたのか、港を見ようと言い出し、二人でコトコト歩いて行きました。人気のない突堤に立つて、母は海の向こうを見つめしていました。その横顔は、いつもの母とは違つて、女としての母の顔でした。神戸

の港とそこに立つ母の姿が印象深く私の記憶に残っています。

旧居留地界隈も大好きなところで、私の散歩道でした。大震災の前の年、神戸国際会館でコンサートを開いた機会に、絵と書の個展をジーニアスギャラリーで開かせたもられたことがあります。

結果的には夫になる藤本敏夫と密会をしていたころ、彼が学生運動に絶望して、西宮の実家に帰つてしまい、後を追つて西宮を訪ねたことがあります。その家は全壊して、後片付けを手伝いに行くと、彼の子供のころのノートや作品などが出て来て、彼の歴史を発掘しているようでした。

こちらに来ている間、AM神戸に出演したり、住吉中学校でコンサートを開いたりしたのですが、たくさんのボランティアがさまざまな活動している中で、私は《忘れない係》になろうと決めました。いま、私たちは一年前のことでもすぐ忘れてしまう時代に生きているのではないかと思います。縄文時代の遺跡も大切だけれど、一年前、五年前の自分がどうしていたのかを覚えていること



（かとう・ときこ）一九四三年中国東北部ハルビン生まれ。六六年東京大学在学中「赤い風船」で日本レコード大賞新人賞。七年藤本敏夫氏と獄中結婚。八七年「百万本のバラ」発売。九四年多可郡中町で日本酒の日のコンサート。アルバム「モンスター」発売。九五年活動三十周年をたどった全曲集「加藤登紀子の世界」発売。九六年一月十一日、住吉中学で「悲しみの海の深さを」などを歌う。

も大事なことだと思います。

風景は変わって行くのでしょうか、心中に残されたものは語り継いでいかなければならないと思っています。神戸や阪神間の人たちと途切れなく接点を持ちながら、広く、多くの人たちに語り継いでいきたいと考えています。

これまで関西の人と話をしていると、何を話してもすつと通り過ぎてしまうような感じがしていたのですが、いまはだれもがきちんと聞いてくれて、心に留めてくれます。人が何を感じているか、何を願っているのかを聞き取ろうとしている、そんなふうになっていることにとても感動しました。今年からFM大阪でレギュラーの番組を始めるにしたのも、こうした発見が一つのきっかけでした。

神戸も、立ち上がりた人、まだ立ち上がりれない人、その差がしだいに広がってくるかも知れません。悲しさ、寂しさはこれから、より深くなるかも知れません。マスクミはしだいに去っていき、関心は薄れていくでしょう。けれど、私は常に時代遅れの女です。時代が忘れていくまでも、私は忘れないでいたいと、心に決めています。

母は、私に中国から日本に引き揚げたときのことをよく話してくれました。佐世保の港に、ボロボロの着物でくたくたになつて上陸したとき、たすきをかけた婦人会

人生三倍楽しめる

■浅井信雄対談シリーズ(18)

浅井 信雄
さきよしゆう
〔神戸市外国语大学教授〕

浅井 お仕事は順調ですか。

麻路 はい。昨年は地震で大変だったんですが、今はもう大丈夫です。順調に行っています。

麻路 二月の初めに名古屋の公演が予定されていて、稽古場が使えなくて、阪急社員用の体育館でやつたり大変でした。生徒は、家に住めなくなつた人も多くて、避難

所から通つたり。体育館は暖房がなくて、コートを着て練習しました。あんなことは初めて。八〇%しかできあがつていなくて幕を開けるなんて、前代未聞のことでした。

た。

浅井 普通だつたら一〇〇%、あるいはそれ以上に仕上げてからなんでしょうね。初日は緊張したでしよう。

麻路わたし、地震でケガもしていたのでもう大変。でも出れるだけまし、という感じで。ほんとだつたら休演してもおかしくない状態で。はだしで踊る場面があるのと、包帯は目立つからテープelingして…。

浅井 どんなケガを？
麻路 倒れたタンスを元に戻そうとしてひねって腫れ上がらせてしまつて。鍼の治療に通いながらの公演でした。



(あさい・のぶお) 1935年新潟県生まれ。東京外大卒。読売新聞ワシントン支局長など海外勤務十年以上。米国ジョージタウン大客員研究員、三菱総合研究所客員研究員などを経て87年から現職。著書「アメリカ50州を読む地図」「民族世界地図」ほか。横浜市在住。

荷物も出せなかつたのでリュックひとつで逃げ出した格好。名古屋で被災者ルックしていました。

浅井 震災で、宝塚の大劇場で公演できなかつたというはつらい経験だつたでしようね。

麻路 宝塚がなくなつたらどうしようかと考えました。一年間自粛しようということになるなどうすればいいのか、わたしはこれしかできないでしよう…。

浅井 やるべきだと決断された方は偉かつたと思います。たとえお客さんが少なくて、やるほうにも見の方にも、

両方に元気を与えてくれましたね。神戸の南京街でも、恒例の春節祭があの二週間後に予定されていて、やるべきか中止するべきか迷いがあつたそうですが、やってみる予想以上にみんなに元気を与えた。

麻路 名古屋の公演が始まつたとき、わたしの知つてゐる芦屋の方は、大阪まで六時間かけてたどり着き、新幹線で名古屋に来て、宝塚歌劇を見て、おふろに入り、食料の買い出しをして、芦屋の避難所へ帰つて行つたといふのです。それを見くと、ああ、やつてみてよかつたとつくづく思いました。東京の人も、四月に宝塚に来て、阪急電車の窓からみた光景や、ボロボロになつた花の道

を歩いて、テレビで見ていたけど、自分の目で見てもつとすごいショックを受けた、と言つていきました。これも宝塚で公演できたから、地震の被害の本当のところを知つてもらえる機会になつたのでしょうね。

浅井 三月三十一日からの宝塚再開は星組公演からでした。しかも麻路さんのトップおひるめ公演。

麻路 ええ、でも公演中は何度も余震があつて、開演をちょっと待つてみたり、開演のアナウンスをしてから震度3くらいがあつて客席から悲鳴があがつたり…。

浅井 そんなときは中断ですか。

麻路 いえ、幕が上がつてしまふと、分からぬし気にならない。後で聞くとフィナーレの途中で大きなのがあつたらしいのですが気づきませんでした。

浅井 お客様の様子はいかがでしたか。

麻路 交通事情が悪いし、泊まるところがないし、団体客のキャンセルが続いて、お客様は半分くらい。わあ、寂しいと思いながらも、この時期にこれだけ来てくださいるのはありがたいなあ、という思いの方が強かつたです。

浅井 客席が半分位というのは、珍しい？

「ベルサイユのばら」で宝塚がブームになる前は、



(あさじ・さき) 1983年初舞台。87年バウホール公演で新人公演主役。92年「白夜伝説」以後、星組2番手男役スター。95年、震災後の宝塚大劇場再開公演「国境のない地図」で星組トップスターになる。96年4月に「剣と恋と虹と」を東京公演、5月10日から宝塚大劇場で新作公演の予定。



浅井信雄さん

しています。現実にはいなくても、いないものを探してしまったのが女性客の心理なんじゃないでしょうか。

浅井 女性から見た理想の男性像とは?

麻路 男の、色気はほしいけど男の匂いはほしくない、というのかなあ。レッド・パトローをやつたことがあるのですが、髭をつけてはいるのですが、髭を剃る生活臭さは出たくない、そういう感じでしようか。

浅井 生々しさを消したところの男性の理想像ですね。お人形みたいなところですか。

麻路 そうですね、そっちの方に近いんじゃないでしょうか。口紅をしていても、せりふや歩き方は男の人に近いという姿で。手がゴツゴツしているのはいやだけど、動かし方は男らしくといふ…。

浅井 男役になりきるのは大変なことですね。

麻路 作り上げる役ですね。ですけど、男の人を研究してリアルにやると生々しいものになっちゃう。

浅井 背がお高いから、宝塚に入るとき、これなら男役で成功するという自信はありましたか。

麻路 入学するときは今より三センチ低く、どちらでもできそうだったんです。声も、今は低いですが、そのころはキンキン声。ただ、男役の人間にあこがれ追いかけていたファンだったので、男役をしたかったんですね。

浅井 声は変えたんですね。

麻路 キンキン声でしゃべる訳にはいかない。ところがせりふの多い役をやるようになると声変わりしてきて、低くなってきたんですね。

★ふだんも男っぽい歩き方には

浅井 声以外に、男役をやるために変えなくてはいけないところはどんなことでした。

麻路 歩き方。今でもほと気が抜けると、こう（両手で内足の形を示して）なつてしまふ。男役としてはダメ。せめて真つすぐにしない。舞台で歩くときは大股にしないといけないので、ふだんもそうなつてしまふ。靴

よくあつたらいいのです。古い人は「こんなのいつもだつたわ」とおっしゃるのですが…。

浅井 わたしも「ベルサイユのばら」は見ました。ストーリーは残酷な部分もあるんですが、それを感じさせない。とこどん美しい。

麻路 いまも結構リアルにつくっていますよ。この間のシラノ・ド・ベルジュラックも高い鼻をつけずにやつたのです。内容的に暗いところがあつても、華やかにきれいにというのが宝塚のモットーです。よく言われるのです、世の中不景氣だけれど、ここでは思いつきりお金使って、ライトも衣装も明るく豪華で気持ちがいいと。

浅井 そうですね。こういうときに華やかで明るいものが励みになる。力を与えてくれますね。

麻路 現実を忘れさせてくれるのでしょうかね。まだこんな世界があるの、ということですね。

浅井 わたしの専門の国際政治はリアルな世界そのものですから、「ベルばら」を見たとき、何という美しい世界かなと思いました。感動して、一生懸命拍手したら、男の客が少なかつたので目立ちました。観客に女性が多いということを前提にして演技されるのですか。

麻路 男役なので、女の目から見た想像の男性を意識

も、ふだんからべつたんこをはいていると重心のかけかたが変わってきて。女人人はつま先から歩くじゃないですか。わたしはかかとから歩くようになってしまって。

ダンスでリフトもあるので、四〇キロ以上ある人を持ち上げる練習もしています。筋肉もすぐつきました。

浅井 公演での失敗はありますか。

麻路 ばれない小さな失敗はあります。せりふを間違えたりとか。早変わりは、五〇秒くらいで着替えるのです。が、下級生のころ、次の場面の衣装を着せられてしまつことがあります。いや、これで、とそのまま…。

浅井 でも失敗しても気にしていたら前に進めない。通訳や人が、間違えてそれを気にすると次の言葉が耳に入つて来ない、と言います。失敗したと思ったらすぐ忘れて乗り切るそうです。ところで中心的な役をしている人が組の上の地位ということになるのですか。

麻路 舞台の上では主役なんですけど、一步袖に入ると違います。舞台の、決められた範囲で踊っているときに手や足が当たつたら、どっちが悪いとは言えませんが、自分より上級生だったら謝らないといけません。

浅井 出る杭は打たれる…。

麻路 浮いてしまって、仲間に入れてもらえない時期があつたりとか。わたしは組み替えを経験したことがある

淺井 公演での失敗はありますか。

麻路 ばれない小さな失敗はあります。せりふを間違えたりとか。早変わりは、五〇秒くらいで着替えるのです。

浅井 でも失敗しても気にしていたら前に進めない。通

訳や人が、間違えてそれを気にすると次の言葉が耳

に入つて来ない、と言います。失敗したと思ったらすぐ忘れて乗り切るそうです。ところで中心的な役をしてい

る人が組の上の地位ということになるのですか。

麻路 舞台の上では主役なんですけど、一步袖に入ると

違います。舞台の、決められた範囲で踊っているときに手や足が当たつたら、どっちが悪いとは言えませんが、

自分より上級生だったら謝らないといけません。

浅井 公演での失敗はありますか。

麻路 ばれない小さな失敗はあります。せりふを間違えたりとか。早変わりは、五〇秒くらいで着替えるのです。

浅井 でも失敗しても気にしていたら前に進めない。通

訳や人が、間違えてそれを気にすると次の言葉が耳

に入つて来ない、と言います。失敗したと思ったらすぐ忘れて乗り切るそうです。ところで中心的な役をしてい

る人が組の上の地位ということになるのですか。

麻路 舞台の上では主役なんですけど、一步袖に入ると

違います。舞台の、決められた範囲で踊っているときに手や足が当たつたら、どっちが悪いとは言えませんが、

麻路さきさん



のです。組み替えというのは、会社を替わるようなものです。組が違うと、システムもカラーも人も違う。組み替えは、人をうまく使うためにもあるのです。みんな優しく受け入れてくれるのですが、それで急に役が付きだしたり…。宝塚のスターというのは、力だけではない。

何かがあるのでですね。会社からスター路線に上げられて、も、失敗したら、本当はいい脇役ができるタイプであつてもそろはなれないこともあります。役者としては十分おもしろいことを経験ししなくとも、役者としては十分おもしろいことを経験できる。長生きできます。わたしたちは、トップをめざしていてもそれを逃してしまふと早く終わってしまう。

浅井 どつちを取るか…。

浅井 会社の中で社長をめざして競争している重役たちという感じですね(笑い)。

麻路 そうですね。今このチャンスを逃してしまうともうなれなくなるという。下が上がつてくるためにもうお引き取りをということになつてしまふ。

浅井 トップはまたつらいですね。

麻路 責任感が植え付けられますね。この間まで無責任でいたのが、いきなり責任を持たされてしまう。一組九十人の座組、どこの舞台でもこれだけ大きな座組はなんですよ。東宝ミュージカルとか劇団四季だつたぶん三十人くらいのチームでしよう。

浅井 横綱はコロコロ負けても下に転落することはない。ところが宝塚ではそうはいかない。

麻路 でも横綱に似ているんじやないですか。はいダメだからということにはならない。一番手まではそういうことはあります。

浅井 それも相撲と似ていますね。大関から転がり落ちちゃつた小錦みたいな。

麻路 横綱と違うのは、横綱は自分に合わせた相撲をしてもらえるわけじやない。でも宝塚は、トップに合わせた作品になつていて。演出家の先生とかプロデューサーの方に失敗しないような作品を作つてもらえる。

浅井 最初から横綱相撲が取れるような構成になつてい
るのですね。

麻路 一番よく見えるようにしてもらつてます。

浅井 それで失敗したら大変（笑い）。うれしかった瞬間
はどんなときですか。

麻路 作品が成功したときももちろんですが、香盤表と
いうのがあるでしょう。役が壁に張り出される。いまだ
つたらボスターが先に張り出されて自分がどんな役をす
るのかは分かっているのですが、下級生のころは、人よ
り役が多かつたりすると…。

浅井 相撲の番付と同じですね（笑い）。

麻路ええ（笑い）新人公演のとき一番手に上げられて
いたとか、主役にわたしの名前が書いてあつたときとか、
その驚き。えーっ、何でわたしが、つて。

浅井 中心的な役を与えて、初めて舞台に登場する、
そんなときもうれしいでしょ。

麻路 宝塚特有の大階段を、全員が迎えてくれていると
ころへ降りて行く、あの瞬間ほど気持ちのいいものはな
いですよ。

浅井 大勢の人の前で演技をするのが好きなんですね。
麻路 メイクして衣装を着ると気持ちが変わります。舞
台ではなくて、パーティ会場でいらっしゃるときも、
ドキドキしちゃう。簡単なスピーチでも間違えないか
と…。大劇場でせりふをしゃべるときは快感がある。

★スカートは一枚も持っていない

浅井 ふだんの生活は、わたしには想像もつかないので
すが、お仕事と切り離せるのですか。

麻路 お休みでも切り離することは難しいですね。鍼治療
に通つたり、スポーツマッサージに行つたり、お買い物
にしても美容院に行くにしても全部宝塚と結び付いてい
ますね。長いお休みになると、麻路さきだと分からない
ところに旅行するんです。

浅井 お忍びの旅行はどんなところに。

麻路 ヨーロッパが好きなんですが、遠いから、ハワイ
とかバリとかオーストラリアとか、そんなところでぼー
としているのが好きで。スポーツすればいいのですが、
あまり日に焼けてはいけないし、ケガをしたら大変だか
らぼーっとしているだけ。

浅井 外国だと目立ちにくい。

麻路 全然目立たない。どこの国の人と聞かれることも
ある。公演の関係で髪の毛を金髪にしていることもある
し。ジーンズ、Tシャツ、帽子をかぶっていると、男の
子、と聞かれることもあります。

浅井 国内ではどんなお忍びスタイルを。

麻路 忍ばない。もうあきらめちやつて。「お写真を」と
言われたときは「ごめんなさい」と言つてかんべんしてもら
うのです。あれ、ここに来ていた、なんて証拠写真にさ
れるでしよう（笑い）。

浅井 その点はこれ以上追求はしませんけど（笑い）。サ
ングラスをするとますます目立つんですね。隠れようと
していることまで分かってしまう。

麻路 帽子をかぶつたりすることはあります。今は金髪
にしている子が多いからいですけど。でもわたし、ス
カートをもつていません。昔、正装用に一枚もつて
いましたが、いまは…。

浅井 男役に徹底していますね。温泉にはよく行きます
か。

麻路 近いですから有馬へ。一日休みがあると、みんな
でよく行くのです。宴会も有馬が多いですよ。「わつ宝塚
だ」と騒ぐ人も少ないし。行けば、お久しぶり、みたい
な感じで。

浅井 宿の人はそうでも、お客様は騒ぐでしょ。

麻路 一度ね、お風呂に入つて、わあつ宝塚の人、
とびっくりされて。うつそー、いやだー、
という感じで。素顔を見られたんですね（笑い）。

浅井 みなさん宴会もされるんですか。

麻路 全員で、お疲れさま、という宴会。余興して…。

浅井 お酒も飲んで。

麻路 みんな強いですよ。体を動かしているから。そのときは上下関係抜きの無礼講で、演出の先生に普段聞けないことを聞いたり…。二、三時間ギヤアギヤア騒いで、あつという間に終わっちゃう。何人かは酔い潰れてぶつ倒れている…（笑）。

浅井 これはめったに外に出ない話なのでしょうね（笑）。

裏方の人も一緒ですか。

麻路 そういうときもあります。集わないとコミュニケーション取れないから。

浅井 それは大事なことですね。たくさんの人たちが舞台を支えているのですから。わたしもテレビ局の打ち上げのパーティーに出ることがあります。知らない人が一杯いるんです。こんなに多くの人に支えられていたのかと思うと、感謝の気持ちを述べたことがあります。

宴会も、そういうことのためにやるんでしょうね。

麻路 会話をしないとお互いどう思っているかが分からぬでしょ。

同じ敷地内にいるわけですから気持ちはよくあいさつできるようにしておくのは大事なことだと思います。でも、最近、あいさつする人が少なくなったように思います。下級生が歩いてくるので、おはようと言おうとしたら、むこうは何も言わず、あ

ら、どうしたの、というような目で見ることもあるんです。

浅井 廊下ですれ違つてあいさつしない学生が多くなりました。わたしがドアを開けて入ろうとしても、向こうから来た学生がわたしを押しのけて出て行く。

麻路 わたしたちは、先生が来られると分かっていると廊下に出てドアを開けるように立つて待つと教えられています。

浅井 今年の予定はどのようですか。

麻路 秋までは公演のスケジュールが詰まっています。

浅井 幸せですね、好きなことが一生懸命できて。

★第三の人生にもやりたいこといっぱい

麻路 いやなことはすぐ忘れることができるから。舞台に上がっているとストレスなど吹っ飛んでしまいます。

時期が来て宝塚が終わってもまた次のことをするからそれも楽しみです。別の仕事になるか、結婚になるかは分かりませんが、人の二倍、人生を楽しむことになるのだと思っています。

浅井 考え方がはつきりしていて、男性的ですね。

麻路 小さいときからそうだったようです。宝塚までは第一の人生。今が第一。これが終わったら第三の人生かなあ…。これまでやりたいことがたくさんあって、もしかカラージェンヌになつていなかつたらこれをやろう、あれをやろうという候補がたくさんあって。

浅井 それはとても幸せな話ですね。サラリーマンは、会社を辞めたらやることが分からなくて、という話はよく聞くのですが。

麻路 それは、四十年も五十年も同じ会社で働き過ぎたんじゃないのでしょうか。

浅井 それでは、バターンが決まつちゃつたんでしょう。ほかの人生考えられない。不幸ですね。今日はすばらしい人生論まで聞かせていただきて楽しかったですよ。



麻路さきさんと浅井信雄さん（宝塚ホテルで）

何も言わずに、あ

◆メッセージ／神戸復興への一提案◆

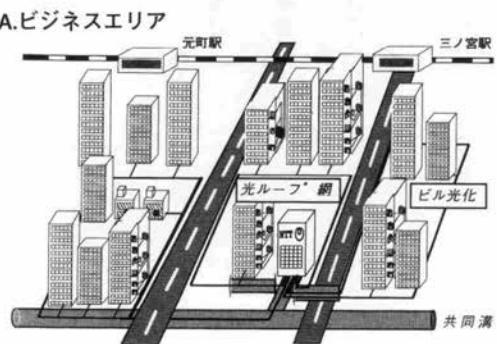
づくりに全面協力して 地域復興と新たな都市

阪神・淡路大震災の 教訓を活かし

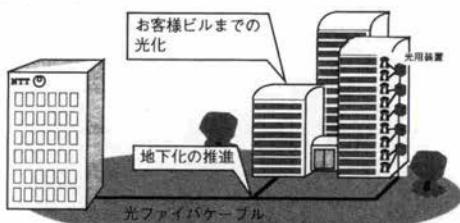
井上 登
(NTT神戸支店長)

今回の震災では、多くの教訓を得ました。

防災対策は決して一朝一夕で出来るものではありません。今後の設備構築、また、避難、誘導などのソフト面の対策についても、常に危機管理を念頭においた対策が講じられるよう後世に伝えていくことが大切です。



A.ビジネスエリア



マルチメディア時代を展望した光ファイバー網

神戸産業の復興に対しても、企業としてできる限り寄与していくたいと考えています。
そこで、社内での各種交流会開催、イベントの神戸誘致による市内宿泊の奨励、神戸特産品の社内通信販売等「Welcome to KOBE & Buy KOBE's運動」を開催し、地元産業の一日も早い復興を願っています。

★一日も早い神戸の復興を

そこで、全国に先駆けてマルチメディア時代を展望したアクセス網の光化をはじめ、災害に強い通信ネットワークをめざす地下化の推進、さらに大規模災害時において迅速な措置、通信設備の一層の信頼性向上をはかるため交換ポイントを分散設置する通信センタの分散化を復興に向けての三つの基本方針として取り組みたいと考えています。

神戸の求心力のある魅力的な街づくり、快適な住環境づくり、地元産業の復興、災害に強い都市づくり等々多くの復興課題がある中で、マルチメディア情報通信はすべての課題の共通項として欠かせないものであり、地域から大いに期待が寄せられています。

そこで、全国に先駆けてマルチメディア時代を展望したアクセス網の光化をはじめ、災害に強い通信ネット

★光化／地下化／通信センタ分散化

◆メッセージ／神戸復興への一提案◆

豊かな日常生活を保証する 魅力あふれる防災都市に

21世紀を見越した

エネルギーシステムを

有本 雄美

（大阪ガス株式会社
常務取締役 兵庫事業本部長）



神戸市中央区の球形ガスホルダーは地震にもびくともしなかった

エネルギーシステムに関して、将来の都市や住まいのあり方を見越して組み込むことが必要です。例えば、熱と電気を同時に産み出す、効率の高いコージェネレーションシステムを組み込んだ「地域冷暖房」。気密性や断熱性の高い住居にふさわしい「床暖房」等。

私達も理想をもつて地域の発展に寄与していくたいと考えています。

震災をふまた神戸は最先端の防災都市になることでしょう。国の重要施設の誘致などによって、第2首都的な役割を果たすことも充分可能です。そのような動きが出て来て欲しいと思います。

「お客様に支えられている」。震災では、そんな当たり前のことを再認識しました。全国のガス事業者のみなさんの応援もあり、昨年4月には復旧作業を完了しました。これからは、街全体が復旧から完全な復興へ向かうときです。

復興の核としては、職・住が一体となつた魅力あるインナーシティの再建が必要です。山と海に挟まれた美しい神戸を空洞化させはなりません。郊外へ郊外へと向かう住民が、インナーシティに回帰するような街づくりを時間かけても造ろうとう、官民の固い決意がまず必要ではないでしょうか。

震災をふまた神戸は最先端の防災都市になることでしょう。国の重要施設の誘致などによって、第2首都的な役割を果たすことも充分可能です。そのような動きが出て来て欲しいと思います。

エネルギーシステムに関して、将来の都市や住まいのあり方を見越して組み込むことが必要です。例えば、熱と電気を同時に産み出す、効率の高いコージェネレーションシステムを組み込んだ「地域冷暖房」。気

清酒 大関

創釀者がつくりたかった味。

大吟醸酒 大坂屋 長兵衛

超特撰 大吟醸酒

1.8L瓶詰 3,750円

720ml瓶詰 1,660円

300ml瓶詰 780円

180ml高級瓶詰 570円

*価格はメーカー希望小売価格です(消費税込み)

④ 大関株式会社

まず、ひと口ふた口、
肴なしで飲る。



未成年者の飲酒は法律で禁止されています。
お酒はおいしく適量を。

地域文化論

〈その192〉

尼崎の水路をゆく —運河・閘門・海—

米花 稔

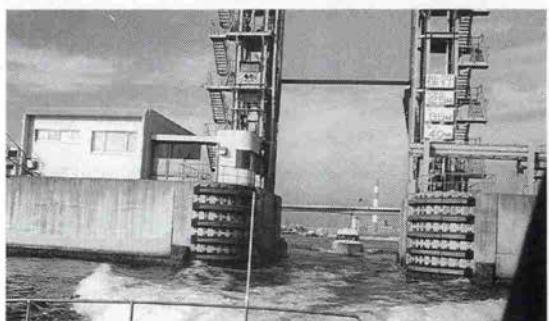
〈神戸大学・福山大学名誉教授〉

「すこしだけキレイになつたのですこそだけぴっくりしてください」と誘われて尼崎の河辺を歩いた（本誌平成六年九月号）。さらに昨年十一月、（財）あまがさき未来協会の会合で、その庄下川の下流の運河から船で、大防潮堤の閘門をへて海にでる機会をもつた。水と緑の回廊づくりのなかでの震災対応などを見るために。

尼崎は河川の土砂の堆積と埋立などで、JR東海道線以南の〇メートル地帯が市域の三分の一を占めるといわれ、台風高潮による浸水にならんできた。昭和二十五年九月のジエーン台風による高潮来襲から、大防潮堤、また運河からの出口も全国的に珍しい開閉式の二つの閘門が築かれた。後の県知事阪本勝氏が市長のころのことであった。このたびのこの通過は満潮時だったので、水位調節に前後のセキを開じるバナマ運河のような体験であった。

今回の大震災は、ここでも一部の地盤の液状化、河川堤防や護岸の損壊、閘門のひとつも閉じられるなどの被害をうけている。閘門の通過に、船の出入の交替、その船の行列によつて巡航予定は短縮を余儀なくされた。とはいえ、この四半世紀のわが国産業の構造改革、加えて震災によつて、尼崎の臨海部の土地利用が大きく変わろうとしている風景に接し得た。この間に関連地域の震災復興計画などをうかがつた。

海にでるとすぐ眼前に、大阪北港のターミナル機能、本格的スポーツ施設、住宅団地などのための埋立進行中の舞洲（まいしま）夢洲（ゆめしま）があり、そのさきの南港の咲洲（さきしま）では既に一昨年から昨年にかけ相次いで完成したATC（アジア貿易センター）WTC（世界貿易センター）など多機能のビルの展開が遙かにみえる。



大防潮堤の閘門

ここ尼崎側の神戸製鋼などかつての重工業臨海部も、眼前のフェニックス処分場沖地区もふくめて、これから市民に親しまれる海辺に生まれ変わろうとしている。計画段階であり、財政事情など課題も多いであろうが、新たな防災対策のもとで、道路公園など基盤整備を進めて、旅客船ターミナル、内外の交流施設、先端技術産業と共に、復興住宅一般住宅、学校などから、商業、文化、レクリエーションなど多機能の施設設備がとりあげられている。

巡航予定の短縮で西宮芦屋沖までみることはできなかつたけれども、これらを通じて二十一世紀はじめには、この臨海部が、地域の発展に寄与しつつ、市民にやさしい海辺に変貌することが期待される。

気概を持つて発信を

I・C・C・Aの必要性



〈日本銀行神戸支店長〉

遠藤 勝裕の

年末、年始を六甲の山で過ごした。クリスマス寒波が残した雪や、「95年最後の夕陽に暮れなずむ神戸の街影などを眺めながらこの一年の様々なことに思いを巡らし何とも感慨深いものがあった。午前零時を期しての新年を迎える港の汽笛、窓を開けると吹き上げる冷氣と共に幾つもの音が耳に飛び込む。テレビから流れる音とは異なる生の温もり、寒さも忘れ暫し聞き入ってしまった。そして新年、7時過ぎ東の雲間から初日が上がり神戸の街を徐々に明るくしていく姿。復興へ向け本当のスタートとなる本年の象徴であつて欲しいとの願いを込め思わず挙手。

さてこの連載も愈々最終回。これまで復興へ向けて六つのキーワードにつきお話をしたが今回はその締めくくりとして、I（インフォメーション）、C（カルチャー）、C（コンフィデンス）、A（アミューズメント）の必要性についてお話ししておきたい。

これらは第一回目で指摘したように、「ヒト」が集まり活気ある地域作りをしていくための要件であり震災前の神戸には満ちあふれていたものばかり。今神戸を中心とする被災地は人口減少という大きな壁にぶち当たっているが、これは今後の復興を阻害する壁である。具体的には定住人口の減少と流入人

波が残した雪や、「95年最後の夕陽に暮れなずむ神戸の街影などを眺めながらこの一年の様々なことに思いを巡らし何とも感慨深いものがあった。午前零時を期しての新年を迎える港の汽笛、窓を開けると吹き上げる冷氣と共に幾つもの音が耳に飛び込む。テレビから流れる音とは異なる生の温もり、寒さも忘れ暫し聞き入ってしまった。そして新年、7時過ぎ東の雲間から初日が上がり神戸の街を徐々に明るくしていく姿。復興へ向け本当のスタートとなる本年の象徴であつて欲しいとの願いを込め思わず挙手。

さてこの連載も愈々最終回。これまで復興へ向けて六つのキーワードにつきお話をしたが今回はその締めくくりとして、I（インフォメーション）、C（カルチャー）、C（コンフィデンス）、A（アミューズメント）の必要性についてお話ししておきたい。

これらは第一回目で指摘したように、「ヒト」が集まり活気ある地域作りをしていくための要件であり震災前の神戸には満ちあふれていたものばかり。今神戸を中心とする被災地は人口減少という大きな壁にぶち当たっているが、これは今後の復興を阻害する壁である。具体的には定住人口の減少と流入人

口の減少という2つの壁であり、復興のためには何としてもこれを取り払わなくてはならない、少なくとも突破可能な薄い壁としなくてはならない。そのためには必要なのがICCAであると私は考えている。

まずは、I、情報。幸い当地は国土軸の中核にあるだけに受ける情報の不足をかこつことは少ない。しかし発信の方はどうであろうか。当地の実情を発信するに当たり「ええ格好しい」は不要。とにかく泥臭く主張することである。復興投資の前倒しや規制緩和の必要性等発信し続けないと忘れられてしまう。

Cの1つ、カルチャーはどうであろうか。文化という言葉には色々な意味がある。「らしさ」はその1つ。神戸らしさをどう取り戻していくか重要なポイントである。しかし受身では戻ってこない、神戸人が自ら作り出す、再生する気概を持たなくては「らしさ」は出てこない。

A、アミューズメント。価値観の違いにより見解が異なるかも知れないが、流入人口を増やし、職場を作り出し、定住人口を増やしていく。そうした流れを作り出すにはアミューズメントの充実が不可欠。ルミナリエの成功が一つの答えを示唆しているが、具体的な中味は幾らかもある。但しキレイゴトでは済まないことも覚悟しておく必要がある。

そして今1つのC、自信である。地域復興を叫ぶ地方ででかけるとよく耳にするのが、自らの土地を卑下する言葉である。住んでいる人がけなず地域に誰が好んで住むであろうか。第一そんな所に人を呼ぼうなどというのは失礼である。この街も然り、今後の復興と発展につき我々が自信を持つこと、そこが出发点、そうでなければ人は集まらない、金も集まらない。何よりも日本経済全体の発展のためにには神戸経済の再生が必要であることを自信を持って発信し続けていかなくてはならないことを改めて強調しておきたい。

神戸に来て、見て、考えて

あの日から一年が過ぎた。

今でも時々、あの地鳴りの音を思い出す。

「ゴオーッ」

そして、「ギリギリッ・・・」と鉄骨のきしむ音。
後から髪を思い切り引っ張られたように、ペッド^ズ」



〈神戸市会議員〉

小山乃里子の

新米議員奮闘記／最終回

一応はマスコミのはしきれ。カメラを持って歩いたが、一枚も写さなかつた。正確には写せなかつた。母の所に身を寄せ、大阪のスタジオに通つたが、どうも落ち着かない。

「逃げている」

そんな気持ちがついてまわつて、一週間で神戸に帰つた。

木もガスの、交通手段も途切れた街に、どうして帰るのか。母も、スタッフも言つたけれど、

「みんな、あの街でがんばつてゐるのに・・・」

結局、その想いが市会議員の立候補につながつたのかもしれない。それと、四月、加藤登紀子さんが東灘の住吉中学の講堂で、チャリティコンサートを開いた。板敷の講堂でおトキさんをかこんだ輪は、小さいけれど、暖かかった。

「私たち一人、昔から似てるって言われて、お互い迷惑してるんだけど・・・」

馬鹿話をしながら、私は、この輪をもっと大きくしたい、と心から思った。

思えばあの日から、

「この震災の街、神戸のために何が出来るのだろう」と強く思うようになったのだった。

この一月、住吉中学で再びおトキさんのコンサートがあつた。輪は三倍ほどになつていて。呼び出されて私は言つた。

「昔以上の素敵な街をみなさんと作りましょうね」と強く思うようになったのだった。
しつかり、市会議員みたいな挨拶になつっていたのが、我ながらおかしい。

年末、有志で「観光復興促進神戸市会議員連盟」なるものが出来た。私も企画委員として参加している。

私が議員になる前に、既に決められていた大型プロジェクトにはまだなじめないが、神戸に来て、見て、考えて、ということなら、私の得意の分野だと思つていれる。

と東へ身体がかたむいて、
「あつ、このままマンションが倒れる」
ふだんなら見えない空が見えて、そこには異様に大
きく赤い月があつた。
真っ暗な階段を三十階ぶんおりた。
どこかで壁の亀裂から、砂が落ちるようなサラ、サラ、という音。そして、時間と共に悲鳴のような救急車のサイレン。私の震災記憶は、すべて音であつた。
三日目、やつと島（六甲アイランド）を抜け出し街に出た。